

鎌ケ谷市国際交流協会

編集・広報部会

Great Experiences for the Host Families (pg $2 \sim 3$)

初めての着物にこぼれる笑顔

Sister City Signing Ceremony Party & KIFA's 10th Anniversary Party (pg $4 \sim 5$)

"Farewell Kamagaya" from Mr. Burke (pg 6)

Reader's Column (pg 7) Miscellaneous Information (pg8)

鎌ケ谷市. ワカタネ(N.Z)姉妹都市提携調印式 KIFA設立10周年記念合同祝賀パーティー

Happy high school students in kimonos.

The Mayor of Whakatane was pleased to see his wife in traditional Japanese costume.

調印式の後に行われたパー ティーでは、リラックスした 雰囲気の中、談笑したり舞台 や展示コーナーを楽しむ両市 民の姿が見られました。特に 着物ショーや着付けコーナー はワカタネからのお客様に、 とても喜ばれていました。

(関連記事P4~5)

The Guests From N.Z. Enjoyed Traditional Japanese Costume

After the ceremony, the guests enjoyed watching the various performances and talking with each other in a relaxed atmosphere. The guests from Whakatane had a great experience putting on beautiful kimonos. (See page $4 \sim 5$)

Great Expreriences for the Host Families

ホストファミリー体験記

姉妹都市提携調印式の為、来鎌したワカタネ市長と市 民40名が、一般家庭にホームスティし、温かい交流の輪 が広がった。

市の広報紙でホストファミリーを募集したのは7月、25名の応募を頂いた。先方からメンバー表が届いたのは11月で、しかも二人一組でスティ希望、相方の調整に深夜迄神経を使った。それでも、説明会を開くと再び検討事項が出て、又変更という具合だったがボランティアの為のボランティアと自分に言い聞かせ、大任を終えた。両市民が初めて対面した時の顔と、別れる日の顔の違いが印象的だった。全員が素晴らしい交流をしたんだと、確信できました。 (交流部会長 石関 澄子)

地球は狭い

初めてのホームスティでしたので、言葉や食事の事など色々と不安もありましたが「案ずるより生むがやすし」で楽しい想出をいっぱい残していってくれました。夕食の時「石焼きいもー」と言って来た時などは、びっくり

して何かとたずねるので、石焼き芋を売りに 来たのだと説明すると、日本はおもしろいと ころだなあーという顔をしていました。又、 メニューにすき焼きを出したところ、おいし いという意味はわかるのですが後の言葉がわ からず、辞書を渡してやっと意味が通じると 皆で笑ったり、又話しをしていてわからない ということがわかると、顔を見合わせて笑っ たりといつもと違う夕食風景でした。

ある時車に乗っていると、ラジオから流れる音楽を聞いて歌いだしました。私も一緒になってハミングしていると、歌っている歌手の名前を教えてくれました。音楽を通して世代、国は異なっても世界は狭くなったなあと感じさせてくれる場面でした。私が自分達と同じような

ホームスティを終えて

鎌ケ谷市姉妹都市行事の一環として、ホームスティ受け入れのお手伝いが出来た事を感謝致します。

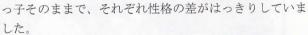
ニュージーランドは昨年フルムーンに行って暖かい人達と出会う事が出来ましたので、是非との思いがありました。我が子、男3人、18才、17才、13才と、マイケル君17才、ハロルド君18才。習慣の違い、言葉がうまく話

石11才、ハロルド石10才。 目頃の崖で、 日来かりまで品 一事にな

The Mayor and Citizens of Whakatane District visited Kamagaya and stayed with Japanese families in the city, in order to attend the Sister City Signing Ceremony. We asked for families to host them in the city paper last July and 25 people applied. In November we received the list of the members coming, however, I was up to midnight arranging the homestays based on certain preferences such as to stay in a couple. However as soon as the meeting for this plan began some other problems arose and I had to alter the plan. I finished my job, saying to myself that I was a volunteer for volunteers. It was very impressive to see the different reactions on their faces between the first day and the last day of their stay. As you can see I'm sure all of them had a great whale of a time. (Sumiko Ishizeki)

音楽を聞いているのを知ると、テープを持って来ていた のか、朝私が主人を駅まで送って行っている間に、音楽 をかけて歌っていました。こういう所は子供と一緒だな あと思いました。又二人の高校生を比べてみると、キリ さんの方が日本にとても関心があるようで、着物を着た

> り、お茶を飲んだり 「お寿司屋さんに行 ってみますか?」と 尋ねると、行きたい と強く主張しました が、シャネルさんの 方はマクドナルドの 方がいいと言う現代



三泊四日と短期のホームスティでしたので話したいことがたくさんありましたが、あまり話すことが出来ず、 今度は少し長期間のホームスティをやってみたいと思いました。 岸 さと美

せるか、生活の場としての食事、風呂はどうか、心配は ありましたが、とても楽しくて、お互いに知ろうとする 努力は、国境をはるかに越えて、ホームスティが終わり 帰ろうとする時は、皆、別れがつらくさえありました。

市の行事多忙の為か、家庭に共に居る時間が不足の様でしたが、また、2年後会える事を楽しみに残しておく 事になりました。

> (余談) カラオケに行きましたら、ビートルズ、 エルビス、マイケル・ジャクソン、とても感激 し今も耳に残っています。家族以外の人にも聞 かせたかった。

> また、この様な機会がありましたら、お手伝いさせて戴きたいと家族で思っています。ありがとうございました。 大野 和夫



初めてのホストファミリー体験

私は、これまでにも外国人との交流は多少ありましたが、ちょっぴり不安を感じながら、でも主人の積極的な後押しがあり、ワカタネ市のシェパード夫妻のホストファミリーをお引き受けしました。

"案ずるより生むがやすし"で、文化・習慣の違う夫

妻との四泊五日の生活は、本当に楽しい経験でした。我が家にお連れして、まずトイレをお見せした時、和式でなく洋式であることに奥様の安堵された顔が今でも忘れられません。又、ご主人が"来日以来、家畜を見てないが、どこにいるのだろう"という素朴な質問をされたことも印象的でした。この度の調印式で、鎌ケ

谷市とワカタネ市との懸け橋が固く結ばれ、民間レベル での交流がますます盛んになることを喜ばしく思います。

たまたま、奥様と私の趣味が、キルトとテディベア作りということも最高のマッチングで幸いでした。私の作

ったベアが "ミッチー" と名付けられ、夫妻とともにお嫁入りしました。英語をしゃべるようになっているかわいい嫁に会いに、私も近い将来ワカタネを訪ねたいと思っています。

生活を共にしたのは、短期間でしたが、心が通じ合えば人間皆同じという感じを再確認しました。彼らが市を

離れられる時は、涙のお別れになりました。

今回のホストファミリーの 体験で、国際交流のささやか なお手伝いが出来ましたこと をうれしくおもいます。

最後にご報告したいことは 国際交流から逆に地域交流が 生まれたことです。同じホス

トファミリーをなさったご近所の林さん夫妻(16年住んでいながら、今までお互いに全然知りませんでした。)と今回をきっかけに交流のはじまったことが何よりの喜びです。 岡野 美津子









案ずるより生むがやすし

兼ねてよりホストファミリーの体験をしたいと思っていた矢先「シスターシティー」の件を知り思い切って申し出ました。多々心配はありましたが「先ずは体験」そんな気持ちでその日を待ちました。いよいよ当日、不安一杯で迎えに行きました。

我が家へのお客様はとても明るく楽しい母娘でした。 主人も我が娘も緊張の様子はなく、私一人舞上がっていたようです。心配の素だった食事も大成功で作り方を知りたいと言われ、たどたどしい英語で料理を教え、又日本文化に興味を持っていたママとお互い辞書を引き乍らのやりとり。主人とも会話が弾み楽しい時間が過ぎました。又、市制公園で朝のウォーキング、商店街散歩、スーパーでの買物、生活用品店、電気店と二人は興味深く我が町鎌ケ谷を楽しんでいました。家族の協力で夜のディズニーランド、そしてカラオケと短い時間でしたが要望通り楽しんでもらいました。

三日目になると以前から知り合いだったかの様に和気 藹々、意気投合し、心配だった言葉の件、食事の件、寝 室について、入浴はどうする、全ての不安は吹っ飛びま した。最後の夜は着物を着せて上げると気に入って下さ り、浴衣を差し上げることにしました。

短い四日間だったですが、日本の文化、そして我々の 鎌ケ谷を少しは判ってもらえたと思っています。

ニュージーランドは人口も少なく、 広々とした生活空間です。それに生活では本とれない道路には驚いたは 情には驚いた様す。私の運転が上 手だとが印象の体験 す。初めての体験



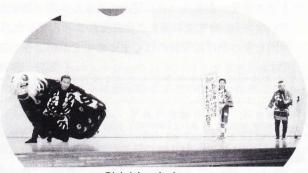
で反省することばかりでしたが、我々家族の誠意は充分に伝わったと思っています。「我が家にも是非来て下さい」 その言葉こそ我々への礼の言葉だったように思えます。「案 ずるより生むがやすし」いつも思っている諺です。今回 もそれが当ったようです。この経験を生かして一層楽し い国際交流をして行きたいと思っています。

土方 洪子

Sister City Signing and



Exchange of gift



Shishimai dance



Presentation of folk costumes

1997年11月

ワカタネとの姉妹都市提携の調印式と、K! 民体育館で、盛大に行われました。

ワカタネからは、代表団、文化グループら4: 両国歌演奏から始まり、両市長による署名、記念品の交換の後、祝賀パーティーとなりまし

小中学生による合唱や演奏、マオリパフォートラクションが次々華やかに繰り広げられましてなどを紹介する日本文化体験コーナーや、 れ、大人気。KIFA紹介コーナーも参加者に

このパーティーのプロデュースを担当したI 前から会合を開き、厳しい討議を重ね、このなく評価されてよいでしょう。活躍したKIFA にご苦労様でした。

特に印象に残ったのは、ニュージーランドでの水準の高さは参加者を圧倒し、国際交流の野我がKIFA会員も、一層の語学の研鑽に

On Nov. 16th 1997, after the Sister City Sig a party was held to commemorate both the Siste party at the City Gymnasium was a great succes school student culture group from Whakatane an party. First both of the national anthems wer and exchanged by the mayors. Addresses were al and a toast was given. As entertainment there Kamagaya, a Maori performance by students from There were corners introducing Japanese cultur also with booths from various countries with falso made.

To organize this big event and make it succe meetings and rigorous discussions for more tha This remarkable service by the members of KIFA be greatly appreciated.

And especially in his address New Zealand Amspeaking in fluent Japanese. He set a good exwe, the members of KIFA, are encouraged to wor



Chorus singing"Kirari Kamagaya" and others



Foreign booths

KIFA's 10th Anniversary

16日 (日)

FAの10周年記念を兼ねた、合同祝賀会が、市

人、鎌ケ谷市からは、約1200人の市民が列席し、 定書の交換で正式調印が整い、両市長の挨拶、 た

マンス、笑福踊り、歌唱等、盛りだくさんのア た。また、会場には、餅つき、蕎麦打ち、帯結 芸品、食品などを並べた各国のブースが設けら アピールされました。

IFAは、周囲の期待に応えるべく1年以上も イベントを成功に導きました。その功績は、高 会員、随所でお手伝い頂いた市民の皆様、本当

使の、日英二か国語の挨拶。その流暢な日本語 本を見る思いでした。

みたいものです。 (広報部会 中町 文代)

ing Ceremony between Whakatane. N. Z. and Kamagaya, City Signing and KIFA's 10th Anniversary. This. 42 members of the delegation and the high 1200 people from Kamagaya were present at the played and the sister city agreement was signed o made by the mayors. Then gifts were exchanged was the chorus and performances by pupils from Whakatane. Syoufukuodori, singing and so on.

The presentation of KIFA was the crafts and foods. A presentation of KIFA was

sful, KIFA had had a continuous series of one year trying to do well beyond our expection. and the assistance by people from Kamagaya should

passador, Martin Wevers, gave a great impression ample to us concerning International Friendship. A harder to learn foreign languages.



Maori performance



Singing



Kenbu

Tea ceremony





Playing Koto

サヨナラ鎌ケ谷

9年近くもの間我が人生を授けたこの 地に別れを告げるのは辛いものがある。 普通外国人は日本に2~3年住んで帰国 してしまうが、それよりも長く滞在を勧



め、仕事をさせてくれた鎌ケ谷市に感謝している。他の 国々にも数年間住んだことがあるが、そこで費やした年 月、そこでの体験と、日本の鎌ケ谷市での数限りない全 く新しい体験とは比べるべくも無い。

通常授業の一環として、何百人もの市内の小学生達に、 毎週英語と "外人" (私のことです)を紹介する機会を持てたことは、私にとって最も手応えがあり、やり甲斐のあることの一つでした。これらの子供達と知り合い、そして子供達が既に抱いていた、アメリカや外国人一般についての疑問や印象を聞くことはとても楽しい事であった。多くの生徒達が、外国の人々・言語・文化に対して、はっきりとした考えが持てる様手助け出来たと信じている。

鎌ケ谷市とニュージーランド、ワカタネとの姉妹都市 提携プロジェクトに調印締結までの間係われたことは、 最も忘れられない仕事上での経験の一つとなった。この 調印により、5年に亙る様々なレベルでのやり取りや意 見交換が終了した。鎌ケ谷市が今後ともワカタネと素晴 らしい関係を築かれんことを心から願っている。

仕事以外でも日常生活でいろいろなことがあった。良い事も悪い事も。教え子達と遠足に行ったり、嵐でアパートの下の空き部屋に飛ばされてしまった布団を地元消防署のハシゴ車に取ってもらったり、近くの料理店で"外人お断り"と言われたり…私はこれら生活上の教訓全てに感謝している。なぜなら、これら全てが日本をより理解する上で役立ったからである。

私が日本の人々から沢山のことを学んだと同様に、私 もまた日本人に影響を与えることが出来たと思っている。 (いい意味での影響だと良いのだが!)少なくとも、多 くの日本人が外国人に対して持っている型にはまったイ メージについて考え直す様チャレンジして来たつもりで ある。鎌ケ谷での生活の御陰で、私の中の日本について の固定観念はすっかり無くなった。

思いのほか長い間鎌ケ谷に住んで、日本と日本人の生活についてバランスのとれた見方が、又出来る様になったと思う。ゆっくりとではあるが、日本と欧米社会双方

Farewell Kamagaya
It's hard to say farewell to a place where I've invested almost nine years of
my life. But I'm grateful to Kamagaya City for inviting me to stay so many years
to work longer than the usual foreigner's two or three year sojourn in Japan.
Although I lived for several years in other countries, those years and
experiences don't compare with the countless completely new experiences I've had
in Kamagaya, Japan.

One of my most challenging and rewarding experiences was having the opportunity to introduce English and a "foreigner" (me) to hundreds of Kamagaya elementary school kids every week in a regular classroom setting. It was fun getting to know these kids and hearing the kinds of questions and impressions they have already formed about the USA and foreigners in general. I'm confident I helped many students develop a positive attitude toward foreign people, languages and cultures.

One of my more memorable work experiences was helping bring the Kamagaya City and Whakatane District, New Zealand Sister City Project to a successful sistercity signing conclusion. The signing capped over five years of exchanges and interactions at many levels. I wish the City good luck with its future relations with Whakatane.

Outside the office, I had a huge number of usual life experiences; i.e., good and bad. These included taking school trips with my elementary students; having a local fire department ladder truck pluck my wind-blown futon from the vacant apartment below mine; being fingerprinted for my foreigner ID card; and being told: "no gaijin" at a local restaurant. I'm grateful for all these life lessons since they all contributed to helping me gain a deeper understanding of Japan.

apartment below mine, being Illigate I. I'm grateful for all these life lessons told: "no gaijin" at a local restaurant. I'm grateful for all these life lessons since they all contributed to helping me gain a deeper understanding of Japan. While I learned much from Japanese people, I'm sure I also impacted them as well. (Positively, I hope!) At the very least, I know I challenged many to rethink prevalent stereotypical images many Japanese have about foreigners. Thanks to living in Kamagaya, I feel that my former stereotype of Japan has been broken down.

A relatively long stay in Kamagaya, allowed me to regain, I think, a balanced and hopefully un-stereotyped perspective of Japan and Japanese life. Slowley, I learned to see, appreciate and even adopt new ways of living in and looking at, both Japanese & US/Western societies. I also came to understand that Japan, while having incredible qualities is, unfortunately, not immune to the problems of discrimination, minority suppression, and historical manipulation, afflicting my and other countries around the world. Despite these ubiquitous problems, I leave Japan in awe of the amazing accomplishments this fine country has achieved at every level.

In closing, I'd like to especially thank the Kamagayans who showed me such generous and genuine kindness and hospitality. I wish everyone good health and happiness. So long and farewell.

Steven Burke

January, 1998

を理解し、識別し、新し い生活様式や物の見方を 取り入れる様にさえなっ た。又、日本にはとても 優れた点がある一方で、 私の国や世界中の国々を 悩ませている、差別や少 数派への抑圧・歴史上の ごまかし等の諸問題に対 して免疫が無い、という ことも分かって来た。こ れら遍在する諸問題はさ ておき、この素晴らしい 国がそれぞれの段階で成 し遂げてきた驚くべき偉 業に対し、畏敬の念を抱 きつつ、私はこの国を後 にする。

最後に、惜しみなく、 心から親切にもてなして くれた鎌ケ谷市民の皆さ んに特に御礼を言いたい と思う。皆さん御元気で、 そして御幸せに。 さよう なら、御機嫌よう。

スティーブン バーク 1998年1月

タイの奥地に里子をたずねて

KIFA Plaza Readers Column





この度私たち親子はタイの東北、いちばん貧しいとい われているイサーン地方へ里子に会いに出かけた。この 旅は娘のタイ語の先生荘司和子さんと近畿ツーリストと で「本物のタイに出会う旅」として企画されたものであ る。そしてこの旅に私たちを含め23人が参加した。それ はイサーン地方の遺跡の見学もかねていたからです。

象の町サリンから地図を頼りに40km、雨期前のかわい た田んぼの中をひたすらバスは走った。国道から離れ、 大丈夫かと思われる細い道を砂ぼこりをたて、私たち25 人を乗せた大型バスは進んでいった。「ココデス、間違イ ナイデス」という現地のガイドの声に皆手をたたいた。 この村でこんなきれいな大型バスを見ることは一生のう ち何度もないのであろう、村人のけげんな顔。バス一台 やっと诵れる道での右折はままならない。校門で四苦八 苦していると、バスの音を聞き付けて中から40歳ちょっ とと思われる赤シャツの男性がニコニコしながら現れた。 校長先生だ。言葉のわからない私でもその表情でどんな に私たちを歓迎してくれているか理解できた。 3 時少し 前、最も暑い時間であったが、木造の教室は涼しく気持 ちいい。私が見学させてもらった教室は4年生で、国語 の授業中でした。担任はスラッとしたチャーミングな女 性で、お坊さんの衣に似た色のスーツが良く似合ってい た。

彼女は突然"Can you speak English?"と聞いた、"A little."と私。二言三言のやりとりに生徒は目を丸くして いた。そして先生は生徒に私を紹介した。かわいい生徒 の大合唱 YOSHIKO! YOSHIKO!。次に私「コンニチ ハ」そして「サヨウナラ」を日本語の先生になり教授。 アッと言う間の出来事。もっともっとここに居たいけど、 「サヨナラ」。なんて言ったって、私の今回の第一の目的 は、私の里子ちゃんに会うことなんだから。

中学校は校庭をはさんで小学校と反対側にあり、中学 校は白い二階建のコンクリート造りであった。二階に図 書室、コンピューター室、校長室、お祈りの部屋などが あり、一階が教室だ。生徒は全員で262名。中学生が76名、 幼稚園が一クラス、残りは小学生。先生は全員で11人。 意外に大きいのでビックリ。この見渡すかぎりの田んぼ の中のどこに、そんなに人がいるのだろうか。昨年、チェ ンマイの奥にある山岳民族の学校を訪れたが、それに比 べるとすべて充実して居る感じ。ただ、図書室があって も本はほとんどない。コンピューター室も未完成、指導 者もいない。政府の補助が一度にこないからだそうです。

誰かが呼んできてくれたようだ。一目で中学生とわか る黄色のジャージのガッシリとした子が二人現われた。 この子かな。でもちょっと違うみたい。私はダルニー証 明書の写真を指差し、その子に見せた。その子がうなづ いた。そして私は、ニックネームを呼んでみた。「コーン ?」私の発音が悪いのか、はずかしそうに下を向いた。 証明書のネームのところを指差して見せた。うなづいた。 間違いない。私は思わず手をとった。興奮して、日本語 でベラベラしゃべったからでしょうか、また下を向いた。 間違いない、この子が私の里子ちゃんコーンだ。大人し い子だ。私の娘は多少タイ語が出来るので、私の里子ち ゃんとさかんにおしゃべりしている。アー、タイ語少し ぐらいやっておくんだった。



いつの間にか私たち4人は同行 の皆に囲まれていた。フラッシュ の嵐だ。だんだん緊張がほぐれて きた。アタマの後の方がまだボー ッとしている。ついにやった。バ ンコクから490km10時間のバスの旅、 皆の応援をうけて二日目でやっと 夢が実現した。この後、私たちは

校内を案内してもらい、帰りの集会で全校生徒に紹介さ れた。娘はつたないタイ語であいさつし、全校生徒の拍 手をうけた。そして私たちの里子二人が全校生徒の前で 私たちに心からのあいさつ「コップンカー」をした。こ れくらい私にもわかるのだ。

引き続いての折紙による交流では、5年生を中心に行 われたが、皆熱中し、先生と久しぶりに折紙にふれた私 たちが夢中になってしまった。子供たちは目をかがやか せて見ている。この目のかがやきを私たちは忘れない。 この純真な子供たち、心豊かな先生方に育てられていい 子に成長していくことでしょう。私たちのバスをいつま でも手をふって別れを惜しんでくれた皆の姿が脳裏にや きついて離れない。皆さん、いい旅を本当にありがとう。

国際交流に関する

あなたの体験、ご意見を お寄せください。 投稿規定:25文字×30行以内。題名、住所、年令(学年)を明記の上、 鎌ケ谷市国際交流協会事務局(市役所3階企画課)まで。 記載されたものには、謝礼をお送り致します。

部 会 報

研修部会

フレンドリー中国語教室

8月26日~11月4日 (計10回)

初の老人クラブ連合との共催で60才以上の男女を対象 に中国語会話教室を開いた。優しく丁寧に指導する馬講 師との会話を楽しむ受講生とが良い雰囲気を醸し出して いました。



「外国語で話す会」通訳ボランティア研修会 12月14日 (日)

外国人の日本に対する考えを聞きたいと「日本のここ が好きここがいや」というテーマについて英語・中国語 ・スペイン語を母国語とする外国人をパネラーに懇談会 形式で話し合った。参加は、一般参加者を含め40数名。

殆どの外国人は、日本の生活を好ましいと思っている 様だが外国人女性にとっては、日本人男性の接し方は、 何か物足りなくそっけ無く感じられる様だ。

パネラーは、母国語で話し、通訳ボランティアが大活 躍できた良い研修となった。



中国みたまま 2月1日(日) 派遣部会

中国上海市 南開大学教授 足立吉弘

今回の講演会は、当初部員対象と考えておりましたが せっかくの講演会ですので、中国に関心をお持ちの方々 に声をおかけしましたところ、予想を上回るご参加を得 ることができ喜んでいます。

前半は先生のお話を伺い、お茶の時間を挟み後半は参 加者の質問に答えるという形で進められました。

内容は、生きた現代史を学んでいるようでした。たと えば、中国の方が大勢集まっているところでは、日本人 男性は、口を開け大声で笑ってはいけないなど、相手の



立場に立た なければ理 解できない ことばかり でした。

(佐藤キク)

日本ボランティア研修会

松本 明子講師 1月18日 (日)

助詞「で」「と」「たら」についての勉強。沢山提示さ れた例文の分別作業を通して、指導時に適切な例文を示 す大切さと例文作成時の心構えを学びました。他市から も10名程の参加が有り熱気溢れる研修会でした。

辺見 庸 講演会

「わたしの歩いた世界と日本」 2月7日 (土) '91「自動起床装置」で芥川賞受賞。ルポルタージュ「も の食うひとびと」がベストセラーになった作家、辺見庸 氏の講演会に、県内各地から、三橋記念館ホール一杯の 参加者が集まった。

内戦や飢餓に苦しむアフリカや汚染されたチェルノブ イリの話。韓国で元従軍慰安婦と日本語での会話。何故 正確な日本語で話し合えるかを考えてほしいと言う。

「見えない像を見なくてはいけない。聞こえない音を

聞きたい。」が氏の姿勢である。 講演後参加者から次々に出さ れる質問に真摯に丁寧に答え る姿に、氏の広いスタンスを 感じた。



雪の日に楽しんだ料理教室

去る2月15日(日)、交流部会主催の恒例 の料理教室が南部公民館で開催され、応募した市民と交 流部会員約35名が雪の降る中を参加しました。当日の料 理の講師はドイツのアネッタさん、バングラディシュの ジャッキーさん、日本料理は篠原さんのお三人で、熱心 な指導の下、それぞれのお国自慢の料理を約2時間かけ て作りました。普段、賞味できない各国の家庭料理を味

わいながら懇親パーティ 一に移り、講師の料理の 説明の後、バングラディ シュの民族楽器による歌 や、吉川さんのテナーの 歌も楽しみました。





集後記

KIFA Plazaの編集に関わって6年。とても 良い体験と、素晴らしい方々との出会いに感謝しつつ、 あわただしく過ごした日々を思い返しています。部会長 を2期務めさせて頂き、そろそろ別の生き方をしてみよ うかなと思い始めて半年。これからは、一会員として、 ゆったりとした気分で、新しいKIFA Plazaを 楽しませて頂くつもりです。ありがとうございました。 KIFAの増々の発展を祈りつつ…… (岡野喜久江)